

胃バリウム検査

バリウム（胃の造影剤）を飲んだ後、検査台の上で体の向きを左右に回転させて、食道から胃、十二指腸までをレントゲン撮影する検査方法です。胃の粘膜に変化が現れにくい癌や、病変が骨、または十二指腸の影になる部分にあるときなどは、見つけることが困難な場合があります。

事故防止のため、[別紙②\(ドック・胃バリウム禁忌\)](#)に該当する方は、人間ドックとしては得られる利益に対して危険性が高いと考えられるため、検査をご遠慮いただく方がよいと思われます。

■検査を受けることの利益

わが国で行われた研究で胃バリウム検診により40～48%の胃がん死亡率の減少が認められました。胃バリウム検診の感度（がんのあるものをがんと正しく診断する精度）は70～80%、特異度（がんでないものを正しくがんがないと診断する精度）は85～90%です。

■検査をうけることの不利益

放射線の被曝（健康に影響をあたえる量ではありません）、腸閉塞や消化管穿孔などの消化管の合併症があります。誤嚥による肺炎（バリウムの誤嚥は10万件あたり37.3件）があります。バリウムなどによって体質的にアレルギー（過敏症；じんましん、息苦しさ、手足が冷たい）が出る方がいます。検査による死亡率は10万件当たり0.015～0.086件です。

その他の不利益については、偽陽性、過剰診断、がんがあってもそれを発見できない場合などがあります。また、胃がん等の確定診断には内視鏡検査が必要になります。

■注意点

- ・ 食事：検査前日の夜10時以降は禁食してください。
- ・ 内服薬：高血圧、心臓病の方は、検査開始2時間前までに服用してください。
- ・ 検査後、下剤を飲んでバリウムを排出する必要があります。便が出ずにバリウムが腸の中で固まると腸閉塞や消化管穿孔、腹膜炎など重篤な合併症の恐れがあります。
特に高齢者では合併症が多くなります。便を出すために、帰宅後も水やお茶をたくさん飲んでください。
通常は6時間程度で白っぽい便が出ます。通常便が出るまで確認してください。
- ・ 翌日になってもバリウムを含む便が出ない、腹痛などの症状が続く場合には当院にご連絡ください。
- すでに食道・胃・十二指腸の治療中および経過観察中の方は、かかりつけの医療機関での精査をお勧めいたします。
- 自覚症状のある方、健診結果が毎回「要精密検査」に該当される方は、当院消化器外来を受診の上、上部内視鏡検査を受けていただけますようお願いいたします。